

令和3年6月定例会 あいさつ

本日ここに、久山町議会6月定例会を招集いたしましたところ、議員全員の皆さまにご出席を賜り、誠にありがとうございます。

先月15日平年より20日早く、九州北部は1954年に次いで、観測史上2番目の早さで梅雨入りを迎えました。

全国的に統計上梅雨入りが早まった場合、梅雨の期間が平年と比べて長くなる傾向にあると言われています。

湿度も高く、憂鬱^{ゆううつ}な時期とも思われがちですが、農林水産業にとっては「恵みの雨」とも呼ばれる時期であり、私たちの生活に欠かすことのできない水を「蓄える時期」でもあります。

一方で大雨や長雨による災害には「万全の対策を図り」、住民の皆さまに、安心して過ごしていただけるよう努めてまいります。

さて、現在、新型コロナウイルス感染症は、変異株の発生により、再び全国的に感染拡大が続いています。福岡県では、5月12日に緊急事態宣言が発出され、感染の拡大防止に努めている状況です。

県内の感染状況は、宣言が発出された12日に、新規感染者数は過去最多となる634人を記録し、その後も、400人から500人程の感染確認が続いております。

現在は、減少傾向に転じていますが、医療機関への負荷は増え続け、重症病床使用率も「ステージ4」と高い数値となっています。

また、福岡県の検査では、感染者の約9割が感染力の強い変異ウイルスに感染しており、大人だけでなく、子供たちへの感染が広がっています。

実際に、他の自治体においては、学級閉鎖や休校を行わざるを得ない状況にもなっています。

本町においては、園児、児童、生徒の感染報告は出ておりませんが、5月中旬以降から濃厚接触者の特定を受ける児童、生徒が確認されており、いつ、どこで、集団感染が発生するかわからない状況といえます。

そのため、本町においては、新型コロナウイルスワクチン接種の対象となっていない子供たちの「安全・安心」を確保すること、集団感染リスクの低減を図ることを目的に、「久山町教育・保育施設におけるPCR検査実施要綱」を定めました。

この要綱により、町内の保育園や幼稚園、小学校、中学校において、今後、感染者および濃厚接触者が確認された際に、濃厚接触者とならなかった園児、児童、生徒を対象にPCR検査を町の負担で実施することといたしております。

現時点では幸い実施に至っておりませんが、今後の検査費用を含め、今回は予防費の中で、予算を計上いたしております。

コロナ感染症は災害と同様に、即座の対応はもちろん、発生する前の準備が非常に大切であり、引き続き、関係各所と連携を図ってまいります。

次に、感染拡大防止策の切り札として期待されているワクチン接種の状況についてご報告いたします。

本町では、5月の連休明けからいち早く個別接種を開始し、集団接種を併用しながら5月30日現在において、75歳までの希望者952名の内、約80%の方々に対して1回目の接種を終えており、随時、2回目の接種を実施しています。

65歳以上の皆さまへの接種についても、7月末までに完了する予定で、大きな問題もなく、計画どおり進めている状況です。

今後は、64歳以下の皆さまの接種に向けて、課題を1つ1つクリアしていくことを念頭に「健康の町」として、早期完了を目指していきたいと考えております。

また、近年「地域医療」という言葉をよく耳にします。この「地域医療」という言葉に明確な定義はありませんが、一般的には、『地域医療は、大切な人を守っていくための幸せの医療だ』『地域医療は医療の一部ではなく、地域の一部だ』と言われていました。

本町は、まさにこれらの考え方で、独自の地域医療を60年継承してきた町であり、その素晴らしさと大切さを今回のワクチン接種で改めて認識いたしました。「地域医療」とは、一朝一夕で成し得るものではなく、医療を提供する者と受ける者が互いに信頼し合い、次の世代の幸せをも考えていくことが大切です。そのことから、長年積み重ねてきた、たまものであると感じております。そしてこの歩みは、まちづくりにも精通しています。

今回、九州大学久山町研究室と、町内開業医、行政とが一体となり、周辺自治体よりもいち早くワクチン接種体制が整いました。これは町民の皆さまが幸せに暮らしていくことを最優先に考えて、愚直に取り組んできた医療側と、それを信頼し協力してきた町民の皆さまが共に歩んできた「60年の積み重ね」の結果だと言えます。

ワクチン接種に関する高齢者の皆さまのアンケート回収率、ワクチン接種希望率の高さから推測すれば、それらが良くわかります。本町のワクチン接種の体制や実施方法などについて、さまざまな方面から評価を受けており、先人たちの「思い」によって作られてきた「唯一無二」のこの取り組みは、これからも後世につなぐべき、久山町の大切な「財産」だと誇りをもっております。

先月、元九州大学医学部第2内科の教授であり、日本国立循環器病センターの所長も務められた、尾前先生が享年94歳でお亡くなりになりました。先生は、久山町ヘルスC&Cセンター長も務め、

久山町の健診に初期から熱心に関わってくださっただけでなく、久山町の風景や風土を愛しておられ、上山田にご自宅を構えられたほどでした。

お亡くなりになる1週間前は、ご家族とご一緒に「ひひひ展」にお見えになりました。先生は、とても嬉しそうにパネルをご覧になり、当時のことを思い出されているお姿が印象的でした。

先生は、病気の治療を中心とした当時の医療において、「先進的な概念」ともいえる予防に重きをおいた「地域医療の推進」を提唱されました。病気を通して、町民の皆さんの辛く、苦しい姿を見て、「幸せに暮らす」ということは、目に見える課題の解決だけではなく、「その課題を発生させないこと」が大切だと考えられたのだと思います。

今を生きる私たちに必要な考え方であることを尾前先生にご教授いただき、本町に対するご功績に感謝を申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

最後になりますが、今回の新型コロナウイルス感染症による「社会の価値」の変化が急激に進んでいます。しかし一方で、本町のこれまでのさまざまな取り組みは、現在、注目されている「SDGsの観点」において評価をされ始めており、経済規模は小さくても、それに変わる豊かさ、魅力が大きく膨らみつつあります。

次の新しい「久山の時代」をスタートしたと実感しております。そのため、今後もスピード感を持ってワクチン接種や感染症予防対策など、直近の課題解決を図りながら、with コロナ・after コロナ社会の変化を見通し、「新たな未来に繋がる一歩」を確実に進めてまいり所存です。引き続き、議員の皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。さて、本6月定例会に提案します案件は、「専決処分をお願いする案件」並びに「令和3年度一般会計補正予算（第2号）」など、全部で7議案でございます。

詳細につきましては、担当課長よりご説明申し上げますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和3年6月2日

久山町長 西村 勝